

全視情協 / ないーぶつうしん	2000/8/5
NAIIV 通信	No.24
発行 発行責任者 川越 利信	
全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)	
(社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内	
Tel.06-6441-0015 Fax.06-6441-0039 E-mail:HBD00035@nifty.ne.jp	

————— 主 な 内 容 —————

- 日盲社協大会報告 2
 - (1) 情報サービス部会(全視情協総会)報告
 - (2) 平成12年度 事業計画・委員会活動計画
 - (3) 点字出版部会報告
 - (4) 日盲社協大会を終えて(新潟県点字図書館)
- ないーぶネットの動き 8
 - (1) 総合ないーぶネットの進捗状況について
 - (2) 「ないーぶネット」事務局から
- 第26回全国視覚障害者情報提供施設大会(茨城大会) 10
 - (1) 開催要項
 - (2) 日 程
 - (3) 会議の内容について
- 「点字技能認定制度」スタート 16
- デイジー図書製作用品の販売について 18

平成11年度事業報告・委員会活動報告、平成11年度ブロック活動報告・平成12年度ブロック活動計画は別刷りです

はじめに

皆さん暑中お見舞い申し上げます。久しぶりの「ないーぶ通信」となりましたこと、心よりお詫び申し上げます。今後は定期発行を心がけますので、ご意見・ご要望と共に情報提供もよろしく申し上げます。

今回は、去る6月14日(水)~16日(金)、新潟市で開かれた第48回全国盲人福祉施設大会(日盲社協大会)における全視情協総会で審議されました事項の報告を中心に、最近の総合ないーぶネットの開発状況をご報告いたします。最後に、10月25日から茨城県で開催されます第26回全視情協大会のお知らせを掲載いたします。

(全視情協事務局)

日盲社協大会報告

新潟と言えば、絶滅の危機にさらされている“トキ”のことが思い出されます。中国から送られた1対のトキが卵を生み、あたかもこの全国大会を祝福するがごとく時を同じくして雛が誕生したそうです。担当された新潟県点字図書館の皆様、本当にご苦労さまでした。

第1日目、14:30から17:20まで開かれた事業部会は、日盲社協の情報サービス部会としての性格と全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)総会の両面の性格を持つものです。今年の大きなテーマは、法人化をめぐる問題でした。点字図書館がNPO(非営利法人。社会貢献を目的とするボランティア団体等が取得する法人)を目指すのはどうかとの疑問も出されましたが、報告にもありますように、社団法人化は、厚生省の理解が得にくいこと、NPO法人は当会にとってのメリットが大きいこと等の理由で、方向転換を図ることが承認されました。今後は、内部での討議を深めると共に、経済企画庁への働きかけを強め、10月の全視情協大会で定款を定め、来春のスタートを目指したいものです。

6事業部会全員による全体会は、「日盲社協の今後の活動について」のテーマで討議されました。社会福祉が大きく変わろうとする今、日盲社協はこれからどのような活動をしていくかについて、当部会からは、京都ライトハウス点字図書館館長田尻彰氏が中途視覚障害者の訓練に従事されてきた経験を生かしての提言をされました。現在の組織は多くの問題を抱えていますが、今後は事務局体制の強化を図っていくとともに、会員施設が主体的・積極的に参加していくことの必要性が確認されました。

一昨年より、点字出版部会と設置・運営基準を巡って検討がなされていますが、高橋実出版部会長のご了解を得て、本大会での点字出版部会報告を掲載させていただきました。同じ視覚障害者情報提供施設として現状認識に役立てていただければと思います。

大会終了後、日盲社協事務局から大会日時の縮小が提案されました。常任理事会で検討の結果、「日盲社協大会の持ち方について」は、事業部会・研修会・大会の3本柱で実施することで、縮小に賛成とする。但し、研修会は全体会として共通のテーマで行う等充実を図る、報告会は行わないこと等を要望いたしました。なお、来年の開催地は福岡県です。

「情報サービス部会」(全視情協総会)報告

日本ライトハウス盲人情報文化センター
岩井 和彦

当部会は、出席者42名の下、議長に西田洋一氏(熊本県点字図書館館長)、田尻彰氏(京都ライトハウス点字図書館館長)を選任して、下記テーマが議論された。近年、参加者数の減少がみられることについての検討が必要だろう。

1. 第1号議案(法人化について)

今年の大きなテーマは、昨年度の神戸大会で決議した社団法人化をNPO法人化へと路線変更する問題であったが、変更の趣旨が事前に十分説明されていないとの意見が多く出された。結果は、賛成21、保留18、反対1であったが、委任状の扱いは、議長または執行部への委任か、賛否の結論への委任なのかを明らかにしておく必要があるだろう。

提案の趣旨は、今日の高度情報化社会に対応するサービスをするためには、法人格を取り、社会的に認知された団体へ移行することが必要だということである。現行では助成金を受けたり、契約行為ができないという不便さもあり、今後は、専任職員を配置して活動の充実を図っていかなければならない。

席上、盛田義弘氏(前・石川県視覚障害者情報文化センター所長)から資料をもとに、社団法人とNPO法人の比較説明がなされた。現在、厚生省は、新規公益法人の設立を極力認めない方針であり、さらに、日盲社協との違いの説明が難しい。視点を変えれば、全視情協の活動はボランティア活動そのものであり、NPO法による活動と一致する。NPOは21世紀に向けて作られるものであり、法人認可を受けやすい。来年4月1日NPO法人設立に向けて努力したい。

フロアーから、「NPO法の本質から言って該当するのか疑問である」、「従来どおり社団法人化に向けて活動してほしい」等の質問・要望がなされた。また、最後に議長から「一応成立しますが、保留の方も多く、今後は執行部にまかせるとしても理事会を中心に皆さんの意見を反映して対応してほしい。」との付帯意見が出された。

なお、本年度より、法人化に向けて、「議事録署名人」を選任し、議事録を正規資料として保管することにした。また、会則16条の規程に基づき、盛田義弘氏と金森義忠氏(前・名古屋盲人情報文化センター所長)の2名の参与を置くことが決議された。盛田氏には、当面、法人化に向けた準備をお願いすることになる。

2. 第2号議案(平成11年度事業報告並びに決算報告、監査報告を一括審議)

DAISYの普及が補正予算での取り組みで進んだこと、「ないーぶネット」が現行システムを維持しつつ新たな開発を進めていること、デポジットライブラリー構想は成果なし、運営基準の改正に向けた取り組みは、1施設2機能論で出版部会と調整していること、著作権問題研究では、公衆送信権が認められる等の大きな動きがあったこと、などが報告され、承認された。

3. 第3号議案（平成12年度事業計画並びに予算案について）

基本テーマを「録音図書のデジタル化と「ないーぶネット」の充実」とし、別掲の事業を実施することが、賛成38、反対0で承認された。（事業計画は以下に掲載）

4. その他

平成13年度の全視情協大会は、中部ブロックの担当、富山県視覚障害者福祉センター主管で10月17日(水)~19日(金)に開催されることになった。

平成12年度 事業計画

基本テーマ：録音図書のデジタル化と「ないーぶネット」の充実

(1) 全視情協法人化に向けた取り組み

NPO法人をめざして、2001年4月法人格取得を目途に取り組む

(2) デジタル録音図書（DAISY）の普及

デイジー相談担当者をブロックに配置する

日盲連等関係団体と協力して、デジタル読書機器に関する日常生活用具指定、購入助成制度等の促進を図る

デジタル読書機器に関する評価委員会を設置し、録音委員会に付託する

なお、デイジー・コンソーシアムは脱会する

(3) 「ないーぶネット」の充実（総合システムの稼働）

現行システムは2003年3月まで継続する

新システムは2000年4月に稼働し、10月中旬までとする

総合システムは2000年10月中旬から稼働、2001年4月から本格稼働させる
利用規約を改定する

(4) デポジット・ライブラリ - 構想

引き続き、実現にむけて努力する

(5) 運営基準改正にむけた取り組み

出版部会と意見調整の上、進める

(6) デジタル化に対応した著作権問題研究

障害者放送協議会と協力して進める

音声情報に関する著作権問題対策に取り組む

(7) 弱視者サービスの研究

引き続き努力する

(8) 専門性の確立

点字技能検定制度への協力

- (9) 全視情協発行書籍の普及と社会啓発
 「点訳のてびき」改訂にむけて取り組む
 「活動するあなたに」の改訂
 「初めてのガイド」のビデオ化

委員会活動計画

録音委員会

- 1 音訳指導員認定講習会の運営
認定のあり方について検討
- 2 「活動するあなたに」改訂
「初めての音訳」一部改訂
- 3 CD録音図書製作に関する各種ガイドラインの検討
- 4 全視情協大会分科会の運営
- 5 その他

サービス委員会

- 1 「全国視覚障害者情報提供施設（点字図書館）実態調査」の検討
- 2 「点字図書館ハンドブック」の見直し
1981年発行のハンドブックの内容等の見直し検討
- 3 「点字図書館等情報ネットワーク整備事業」への協力
同事業の関連で生ずる部分への協力

ネットワーク委員会

- 1 「ないーぶネット」拡充活動
- 2 講習会の企画

点訳委員会

- 1 平成12年度点字指導員講習会（点字指導員資格認定講習会）開催
 日時 平成12年8月23日(水)~25日(金)
 会場 山西福祉記念会館（大阪市北区）
- 2 委員会開催
 5月下旬 関東・中部小委員会（課題文審査）
 6月中旬 点訳委員会（講習会準備、受講者決定）
 9月中旬 関東・中部小委員会（認定問題解答の審査）
 10月中旬 点訳委員会（指導員認定者決定、講習会事後処理と反省）
 1月 点訳委員会（平成13年度点字指導員講習会準備）
 3月 点訳委員会（平成13年度点字指導員講習会準備）

点字出版部会報告

平成12年度 日盲社協点字出版部会事業部会報告

日 時：平成12年6月14日(水)

場 所：ホテル新潟

出席者：14施設・21名

記 録：肥後正幸

進 行：高橋秀治

はじめに高橋実部会長より挨拶があり、出席者自己紹介ののち、進行役と記録者を出し、議事に入りました。以下、討議のあらましを報告します。

まず、部会事務局より平成11年度の事業報告を受けた後、平成12年度の事業計画を検討しました。

継続事業3件のうち、「点字出版速報の発行」、「点字出版データ維持」の事業については今年度も引き続き行うこととし、残りの「点字図書総合目録点字版の発行」は、単年度新規事業の予算との兼ね合いで保留としました。(注：保留にしていた目録点字版発行は、大会後今年度は中止し、その予算を新規事業に充てることにしました。)

単年度新規事業の2件のうち、「選挙における視覚障害者への情報アクセスの実態調査」については、去る4月28日に都道府県・東京特別区・市の748の選挙管理委員会に対し、「選挙のお知らせ」等の発行状況をアンケート調査しました。

回収は748件中、517件で70%の高い回収率でした。500を超える選挙管理委員会の資料を集められたという点では非常に有意義な調査であったと思われます。そこで明らかになったことは、視覚障害者の情報障害の部分がまだまだ大きなものであるという厳然たる事実であります。部会としては今後このデータを分析し、一定の報告書としてまとめる予定ですが、視覚障害者の情報アクセスの改善に役立てたいと考えています。

2つ目の新規事業の「ワーキンググループによる点字サイン標準化のための研究」については、部会内の4名の委員(京都ライトハウス・田中正和、日本点字図書館・和田 勉、名古屋ライトハウス・田中真美子、日本ライトハウス・堀江豊治)によってワーキンググループを組織し、今年度4回程度の委員会を開催して研究を行い、用具部会とも連携を図り、年度末までに報告書を作成することになりました。

議題3の「設置基準について」は、先般の法改正の公布を受けて、最低基準の整備案を情報サービス部会と連携をとりながら、厚生省に働きかけることを確認しました。

「部会独自会費徴収」については、さまざまな活動を行うものの活動費が全くないために昨年度より部会加盟施設にご協力をいただき、法人格を有する施設より1万円、それ以外の施設より5千円を徴収していますが、その会計報告と12年度予算を検討し、了承されました。

特に12年度独自会費予算については、「選挙アンケート費」と「点字サイン標準化研究費」が日盲社協予算で執行できないため、独自会費予算も苦しい状況になっています。会費の値上げ案も出ましたが、部会長より「できるだけそのようなことがないように努力して」

やりくりをしながら活動することが確認されました。

今年度の中間部会は、8月24日(木)日本点字図書館で、新年度予算・事業計画および懸案事項の審議を行い、職員研修会は11月下旬に「日本点字表記法2001年版について」、「点字サイン標準化のための研究の経過報告について」、「デージー図書の製作について」等をテーマに開催することにしました。

橋口 勇男

(日本ライトハウス点字情報技術センター)

日盲社協大会を終えて

新潟県点字図書館

このたびは全国各地より、第48回全国盲人福祉施設大会にお集まりいただき本当にありがとうございました。少ない人数の地元スタッフで不手際も多く、皆様方にご迷惑をおかけしたと存じますが、様々な面で関係者、参加者、ボランティアの方々に支えていただいたお陰で、無事大会を終えることができましたことに、地元事務局として厚くお礼申し上げます。

大会開催を本格的に意識してからの約半年間はわたしたち5人の職員にとっては非常に長い時間を感じられました。とはいえ、漠然と「何か準備をしなければ」という思いで過ごした5ヶ月半、そして残りの半月間はおおげさでしょうが、記憶もないほどの怒涛の日々だったような気がします。特に前年の立派な京都大会の後ということからのプレッシャーが大きかったように思いますが、「新潟は新潟の味でいこうよ」とスタッフ一同開き直ってからは、いかに新潟らしい大会を実現できるかに全力を注いで臨みました。

日本海の荒波を感じるような万代太鼓と雪の平野の風を思わせる三味線との初のセッションを試みた交流会でのアトラクション、地酒、話題の朱鷺の講演などから、少しでも新潟の風土を感じていただき、記憶にとどめていただけたら事務局としてこんなにうれしいことはありません。

また、大会での厚生省の講演や各部会報告なども非常に内容の濃いものが多かったことから、大会終了後に点字資料の申込みが殺到したことに本当にびっくりいたしました。その中には、参加していない職員にも読ませたいのでということから申し込まれる方も多く、直前まで資料の点訳に携わった職員・ボランティアもその労が報われた思いであります。

終わってしまえばあっという間の3日間でしたが、ふだんは体験できないようなことの連続で職員一同、様々な勉強をさせていただきました。「次回、日盲社協全国大会の当番県になる時には、今のスタッフはだれもいないよね。とにかく終わった、終わった」と雪国新潟から九州福岡にバトンを渡して、今はのんきに胸をなでおろしています。皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

「ないーぶネット」の動き

「総合ないーぶネット」の進捗状況について

今年1月14日にスタートした、「点字図書館情報ネットワークシステム委員会」は、「総合ないーぶネット」の構築を目指して、委員の方々の献身的な努力が続けられています。

これまで、FAX、「ないーぶネット」の掲示板及び、去る6月に新潟で開催された日盲社協大会の分科会などを利用して途中経過をご報告してきましたが、ここに改めて今まで決まっていることをスケジュールを含めてお知らせします。

この事業は、平成11年度第2次補正予算として日本点字図書館についた「点字図書館等情報ネットワーク整備事業」を、日本点字図書館と全視情協が協力して「ないーぶネット」の充実に役立てることを目的に、両者から委員を出し合って進めているものです。

「点字図書館情報ネットワークシステム委員会」

任期：平成12年1月1日～平成13年3月31日

役割：平成11年度補正予算として日本点字図書館についた「点字図書館等情報ネットワーク整備事業」(662,278,000円)を受け、「総合ないーぶネット」として、平成12年度末を目標にネットワークシステム及び図書管理システムの構築を行う。

全視情協側委員：

1. 後藤 健市 (北海点字図書館)・副委員長
2. 襟川 茂 (京都ライトハウス点字図書館)
3. 吉弘 裕子 (鹿児島県視聴覚障害者情報センター)
4. 白石 卓也 (愛媛県視聴覚福祉センター)
5. 加藤 俊和 (日本ライトハウス)
6. 村井 晶人 (日本ライトハウス盲人情報文化センター)
7. 岡村 朋子 (石川県視覚障害者情報文化センター)
8. 西 ひとみ (神戸市立点字図書館)

日本点字図書館側委員：

1. 直居 鉄・委員長
2. 小野 俊己
3. 蕪木 克行
4. 勢木 一功
5. 立花 明彦

特別委員 (全視情協会長と日点理事長が委嘱)：

水野 舜 (LIMASY開発者 金沢工業大学教授)

オブザーバー：

宮代 信子 (国立国会図書館)

窓口・事務担当：

- 1．藤野 克己（全視情協）
- 2．滝沢 政晴（日点）
- 3．野村 勝之（日点）

委員会発足後、全体会とネットワーク小委員会（責任者・襟川 茂）・管理システム小委員会（責任者・村井晶人）が精力的に開催され、両システムの基本構想が練られてきました。そして、現在は、開発業者として指名した日本アイ・ビー・エム株式会社と開発スタッフによって、細かい詰めの作業が行われています。

今までに決まっている主な事項は次のとおりです。

- 1 全視情協加盟施設(89、日点を除く)及び点字出版施設(13) ないーぶネット加盟のデータアップボランティア団体(7)にプログラムを組み込んだパソコンを配布する。
- 2 開発に当たり、次の3施設にパイロット館の役割をお願いする。
 - ・愛媛県視聴覚福祉センター
 - ・神戸市立点字図書館
 - ・千葉点字図書館
 また、各ブロックごとに2～3施設ずつのモデル館を決め、先行導入を図る。
 パイロット館：図書管理システムを開発段階で導入し、導入にかかるドキュメント（記録）を取って、開発に反映する。
 モデル館：先行してシステムを導入し、各ブロックにおいて各施設の導入にかかる支援、ブロック研修等における支援などを行う。
- 3 ブロック単位の研修会（費用は補正予算から支出）を、来年2月に東京と大阪で開催する。その際、点字出版所及びボランティア団体も該当するブロックの研修会に参加していただく。（図書管理システムを中心とした研修）
- 4 平成13年4月1日をもって「総合ないーぶネット」がメインのシステムとして本格稼働する。本年4月より稼働している新システムは、10月以降順次「総合ないーぶネット」へ切り替える。現システムは、2年間で限りにサブシステムとして稼働を続ける。

各システムの説明は次のとおりです。

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 現行システム | - 「てんやく広場」時代から継承しているパソコン通信 |
| 新システム | - 2000年4月からスタートしたインターネット版システム |
| 総合ないーぶネット | - 現在開発を行なっているシステム |

経過報告が遅れ申し訳ありません。今後は、月に1度のペースで進捗状況をご報告いたしますので、この事業に対するご理解とご協力をお願いいたします。

（文責 藤野）

「ないーぶネット」事務局から

昨年の第25回全視情協大会以降、当ネットワークに入会された施設・団体は以下のとおりです。また、4月からの新システムの開始に伴い、利用規約も改定されました。総合ないーぶネットシステムの本格稼動に伴い、さらに規約の改定が必要になると思われます。(利用規約については、ないーぶネット上の「掲示板」の中の「ご案内」欄に掲載しています。)

2000年7月25日現在

佐賀県立点字図書館	UM
徳山点字図書館	UM
沖縄国際大学	DM
恵泉女学園大学	DM
宇都宮市立図書館	UM
旭川盲人福祉センター 旭川点字図書館 (DMからの変更)	UM
鳥取県ライトハウス点字図書館 (点訳データ審査中)	UM

平成12年度

第26回全国視覚障害者情報提供施設大会 (茨城大会) 開催要項

目的 社会福祉基礎構造改革の一環として、社会福祉関連法律の改正が進められ、「社会福祉事業法」が「社会福祉法」として生まれ変わるなど、日本の障害者施策は50年ぶりに大きく変革されつつあります。

一方、情報の高度化はさらに進み、デジタル化並びにマルチメディア化の流れの中で、視覚障害者が新たな情報障害者にならないために、視覚障害者情報提供施設の果たす役割はますます大きくなっています。

全国視覚障害者情報提供施設協会は、平成11年度・12年度の2ヵ年計画として「録音図書のデジタル化とないーぶネットの充実」をテーマに取り組んでいますが、平成10年度及び11年度の国の補正予算によってこれらの事業が大きく進展してきました。

また、日本点字委員会が取り組んでいる「日本点字表記法」の改訂に伴う「点訳のてびき」の改訂作業も、会員施設職員等の協力によって進められています。

このように、視覚障害者への情報提供事業は、施設が個々に取り組むのではなく、全国の施設がネットワークを組み、それを活用してサービスを行う時代になっていますし、各地域の情報提供施設が求められている事業は、ますます多様化しています。

本大会は、現在取り組んでいる法人化の問題についてさらに議論を進めること、社会福祉基礎構造改革の最新の情報を得ること、「総合ないぶネット」システム及び録音図書のデジタル化などの現状を共通認識して今後の取り組みの足並みを揃えること、また、各種テキスト類が担当職員の意見を反映した改訂となるように十分に協議することなどを主な内容として、さまざまな研修・協議を行うことにより、視覚障害者情報提供施設の今後のあり方を模索し、情報サービスの標準化を図るとともに、視覚障害者の社会参加促進とノーマライゼーションの実現に資することを目的として開催します。

主 催 社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会
全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）

主 管 関東地区点字図書館協議会
茨城県立点字図書館

後 援 厚生省
(予定) 文部省
茨城県
水戸市
社会福祉法人 日本盲人会連合
社会福祉法人 日本盲人福祉委員会
全国盲学校長会
社団法人 日本図書館協会
財団法人 鉄道弘済会
各報道機関・社会福祉関係機関

協 賛 JBS日本福祉放送
(予定)

期 日 平成12年10月25日(水)~ 10月27日(金)

会 場 水戸プラザホテル
〒310-0005 水戸市水府町986-1
TEL: 029-231-8111 FAX: 029-231-8433

事務局 茨城県立点字図書館
〒310-0055 水戸市袴塚1-4-64
TEL: 029-221-0098 FAX: 029-221-0234

第26回全国視覚障害者情報提供施設大会〔茨城大会〕 日程表

日時：平成12年10月25日～27日

会場：水戸プラザホテル

日・時	会議等	会 場	会議の内容	担 当
10月24日(火) 15:00～18:00	理事会	寿の間(4F)		理事会
10月25日(水) 10:00～11:30	施設長会議	橘の間(2F)	平成12年度 第2回全視情協総会	理事会
11:30～12:30	講 演 1	橘の間(2F)	厚生省	理事会
12:00～13:30	受 付			主管施設
13:30～14:10	開 会 式	瑞雲の間(2F)		主管施設
14:10～14:30	機器展示品説明	瑞雲の間(2F)		主管施設
14:40～17:20	全体会 1	瑞雲の間(2F)	「総合ないーぶネット」 について	ネットワーク委員会 ないーぶネット事務局 サービス委員会
17:20～18:00	チェックイン・休憩			
18:00～20:00	交 流 会	瑞雲の間(2F)		主管施設
10月26日(木)	分科会 1	橘の間(東)	デジ書製作に ついて	録音委員会
9:00～12:00	分科会 2	橘の間(西)	「点訳のてびき」改訂 について	「点訳のてびき」 改訂委員会
	分科会 3	瑞雲の間	施設長会議 これからの施設運営	理事会
12:00～13:00	昼食・休憩			
13:00～14:30	講 演 2	瑞雲の間	水戸史学会理事 但野正弘 「先人の少年時代」	主管施設
15:00～17:00	全体会 2	瑞雲の間	これからの情報提供 施設のあり方	理事会
17:30～19:30	夕 食			
19:00～21:00	自主学習会1	橘の間(東)	次世代の録音機 デジ書編集時の音質補正	録音委員会
	自主学習会2	橘の間(西)	点字表記について 改訂について	点訳委員会
	自主学習会3	瑞雲の間(東)	システム関係	ネットワーク委員会 ないーぶネット事務局
10月27日(金) 9:00～9:20	講 演 3	瑞雲の間	日盲連会長 笹川吉彦氏 新しい社会福祉と情報サービス	理事会
9:20～11:30	全体会 3	瑞雲の間	各分科会報告 各委員会報告	理事会
11:30～12:00	閉 会 式	瑞雲の間		主管施設
10月25日13:00～ 26日18:00	機器展示	萩の間	自由見学	

会議の内容について

今大会では、どうしても全期間の参加が無理という場合には
 施設長各位には、 25日(水)朝から 26日(木)まで
 職員の皆様には、 26日(木)朝から 27日(金)まで
 それぞれ参加できるようにプログラムを組みましたので、施設の事情
 に合わせてご参加くださるようお願いいたします。

今大会の会議の主な内容は次のとおりです。

1. 施設長会議 (25日 10:00 ~ 11:30)

この会議は全視情協の「総会」となりますので、加盟施設長のご出席をお願いします。12年度事業活動の現状報告に併せ課題等について提案され、これを踏まえながら次年度事業等について協議していただきます。また、日盲社協全国大会に引き続き、前年より進めている法人化についての経過報告・決議があります。

2. 講演 1 (25日 11:30 ~ 12:30)

「社会福祉基礎構造改革と視覚障害者情報提供施設」のテーマで、厚生省担当官に講演いただきます(交渉中)。中央の最新の情報を直接聞くことができますし、その後の協議にも影響があることが予測されますので、施設長はもとより、職員の方も是非ご参加下さい。

3. 全体会 1 (25日 14:40 ~ 17:20)

「総合なイーブネットシステムについて」

システム開発の現状と今後のスケジュール、新システムから総合ネットワークシステムへの移行についての現状報告・説明と、ネットワークのイメージについて日本アイ・ビー・エム(株)のデモンストレーションがあります。また、期待されるサービスというテーマで、パイロット館からの報告・目録規則の統一・なイーブネットの活用の試みについて発表があります。是非ご参加下さい。

4. 各分科会 (26日 9:00 ~ 12:00)

分科会 1 「デジター録音図書製作について」

録音委員会が担当し、デジタル録音図書製作(MD・MOによるマスター製作) また、デジター編集の際のミキサーによる音質補正、パソコンソフトによる音質補正、編集後の校正について、それぞれ事例発表していただきます。

なお、質疑応答の時間も予定しています。

分科会 2 「『点訳のてびき』の改訂について」

2002年3月に発行予定の『点訳のてびき』改訂版について、日本点字委員会での「日本点字表記法」の改訂作業の状況と改訂特別委員会の経過報告を行い、参加者による討議を深めて今後の改訂に反映させます。特に今回は、表記法の改訂以外の部分で『点訳のてびき』が抱えている問題点について協議します。

分科会 3 「これからの施設運営」

21世紀に向けて、福祉の変革が言われる中、経営種別を問わずいずれの施設も「これからの施設運営」に苦慮されていることでしょう。

本分科会では、経営主体別現状報告・職員の専門性や活性化のための人事交流・社会福祉法等改正と施設運営のテーマで実践報告をいただき議論を深めたいと思います。資料として、「平成11年度施設運営実態調査」を参考にさせていただきます。

5 講演 2 (26日 13:00 ~ 14:30)

「先人の少年時代」- 若き日の水戸黄門 - 水戸史学会理事 但野 正弘氏

今年は、「光圀公没後300年・斉昭公生誕200年」にあたり、開催地の茨城県ではさまざまなキャンペーンが行われているところです。

皆様には、光圀公の生涯に最も精通されている講師から、知られざるエピソードなどを含めて、「水戸黄門さま」の話をひととき肩をほぐして聴いていただきます。

6 全体会 2 (26日 15:00 ~ 17:00)

「これからの情報提供施設のあり方」

福祉サービス・情報サービスのニーズが多様化する中で、福祉の地方移管が進められました。各施設では、いかに適切で質の高いサービスができるか、様々な制約と課題を抱えながら事業展開を模索されていることと考えます。

とりわけ地方の情報提供施設は、図書館業務の範疇を超えた支援センター的な役割が求められており、今後ますますそのような施設としての存在価値・真価が問われることになると思われます。

そこで今回は、情報提供施設として先駆的・指導的な施設、確立された複合的な施設、情報提供施設の中で生活訓練等を実施している施設等、公立・民間施設それぞれの立場から発表していただき研修・討議します。

また、厚生省の担当官を助言者として迎える予定です。

7 自主学習会 (26日 19:00 ~ 21:00)

自主学習会 1 「次世代の録音機・デジター編集の際の音質補正」

マスター製作のためのMO・MD、デジター編集時の音質補正ソフトなどを実際に使ってください。

また、デジター編集関係機器の展示も予定しております。

自主学習会 2 「点字表記についてのフリートーク」

分科会での内容を受ける形での自由懇談。

「点字表記法」「点訳のてびき」にとらわれず、点字表記全般に関する自由懇談とします。

自主学習会 3 「システム関係」

総合ないぶネットに関するフリーディスカッション・なんでも相談的な場にしたいと思っています。できるだけ充実した学習会にするため、内容その他を思案、検討中です。

詳細については、追って開発委員会からお知らせします。

8 講演 3 (27日 9:00~9:20)

日本盲人会連合 会長 笹川 吉彦氏

ご挨拶を兼ねて、「新しい社会福祉と情報サービス」について、お話ししていただきます。



「点字技能認定制度」スタート！

すでに点字毎日の記事でご承知の方も多いと思いますが、日盲社協の「点字技能認定制度」がスタートし、この7月7日に第1回運営委員会が開催されました。

この制度は、全視情協（情報サービス部会）と点字出版部会からそれぞれ3名の委員を出し、日盲社協理事を交えて昨年からの準備を行っていたもので、運営委員会には、日盲社協からの4名（五十嵐常務理事、藤野・田中情報サービス部会副部長、高橋点字出版部会長）の委員に加え、笹川日盲連会長、皆川全国盲学校長会会長、阿佐日点委会長と、全国組織の代表者が顔を揃え、それに小林一弘氏（日本社会事業大学講師）の8名で構成されています。

なお同日、運営委員会から指名された10名の委員による試験委員会も開催され、第1回検定試験を平成13年1月28日(日)に東京・大阪の2カ所で行うことなどが決まりました。

募集要項など詳しいことは、改めて通知が届きますので、ここでは、この制度の実施要綱をご紹介します。

点字技能認定制度実施要綱

1 目的

この制度は、点字に関する卓越した知識・技術を有する者に対して資格を付与することにより、点字関係職種の専門性と社会的認知度を高め、合わせて点字の普及と点字の質の向上を図り、視覚障害者の情報アクセスを保障することを目的とする。

2 実施主体

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会(以下、「日盲社協」という。)が実施する。

3 委員会

(1) 認定制度を円滑に実施するために、日盲社協内に次の委員会を置く。

ア. 点字技能士認定制度運営委員会

認定制度全般の運営に携わるほか、検定の合否を決定する。

イ. 点字技能士検定制度試験委員会

試験問題の作成、検定試験の実施、採点を行う。

(2) 前項の委員会は、日盲社協定款第32条第2項の特別委員会として位置づける。

(3) 委員は、学識経験者、点字専門家等を充て、日盲社協理事長が委嘱する。

(4) 各委員会とも委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(5) 委員長は委員の互選によって選任する。

(6) 試験委員会の委員名は非公開とする。

4 資格の名称

この制度によって付与する資格の名称は、「点字技能士」とする。

5 検定試験

(1) 検定試験は年1回とし、全国数カ所で同時に実施する。

(2) 試験科目は別に定める。

6 受験資格

年齢が、検定試験実施の年度内に満18歳以上となる者。

7 合否の決定

(1) 検定試験実施後、速やかに運営委員会を開催し、試験委員会の採点に基づいて合否を決定する。

(2) 合格者には、日盲社協理事長名の合格証を交付する。

8 登録と認定

- (1) 検定試験合格者が「点字技能士」の認定を受ける場合には、日盲社協理事長宛に登録するものとする。
- (2) 日盲社協理事長は、登録者に対して「点字技能士認定証」を交付する。
- (3) 登録は、検定試験合格証交付の日から3年以内に行なければならない。

9 受験料及び登録料

受験料及び登録料は別に定める。

10 事務局

日盲社協に点字技能認定制度事務局を置く。

11 その他

この制度の実施に当たり、必要な事項は別に定める。

12 付則

この要綱は、平成12年6月14日から施行する。

(参考)

点字技能認定制度 運営委員会委員名簿

- 委員長： 高橋 実（日盲社協出版部会長）
- 副委員長： 田中 徹二（日盲社協情報サービス部会副部会長）
- 藤野 克己（日盲社協情報サービス部会副部会長）
- 委員：（50音順）
- 阿佐 博（日本点字委員会会長）
- 五十嵐光雄（日盲社協常務理事）
- 小林 一弘（日本社会事業大学講師）
- 笹川 吉彦（日本盲人会連合会長）
- 皆川 春雄（全国盲学校長会会長）



🌀 デイジー図書製作用品の販売について 🌀

全視情協事務局からのお知らせ

全視情協事務局では、デイジー図書の製作を支援するため、以下の商品を取り扱うことにいたしました。

CD郵送ケースは当協会が開発したものであり、たいへん廉価です。キャディ用はキャディケースを装着したままで郵送できるケースです。また、Pケース用は、音楽CDなど一般の透明プラスチックケースに入ったCDを郵送する際にご利用ください。

CD-Rは、今回、三井化学製の商品を値下げいたしました。プレクスター社扱いのCD-Rは、視覚障害者が表裏の識別ができるようにCDの中心に凸表示をつけたものです。

さらに、各施設からお問い合わせをいただいておりますキャディケースについても、全視情協事務局で取り扱うことになりました。透明・半透明の2種類がありますが、落下等による破損を懸念される場合は、より強度の高い透明タイプをご利用ください。

これら商品の売上利益は、全視情協発行の書籍とともに、全視情協の活動資金となりますのでご協力方よろしくお願ひいたします。

CD郵送ケース	(キャディ用)	会員価格	1個180円(50個単位)
		一般価格	1個200円
	(Pケース用)	会員価格	1個180円(50個単位)
		一般価格	1個200円
CD-R	(三井化学製)	ケース付	1枚120円(100枚単位)
		ケースなし	1枚120円(200枚単位)
	(プレクスター扱)	1枚130円(300枚単位) 表裏識別マーク付、50枚ケース入り	
キャディケース	半透明タイプ	1個300円(100個単位)	
	透明タイプ	1個390円(100個単位)	

(消費税別途、CD郵送ケースについては送料要)

ご注文は、FAXで下記へお願いします。

全視情協事務局(担当:正井)

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

盲人情報文化センター内

TEL 06-6441-0015

FAX 06-6441-0039